

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●C.ルメール騎手がJRA年間100勝を達成

9月7日(土)の4回中山1日・第5レースではブレッシングレインが1着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は、5年連続5回目となるJRA年間100勝を達成しました。年間100勝は川田将雅騎手に続いて今年2人目となります。

### ●田村康仁調教師がJRA通算500勝を達成

9月8日(日)の4回中山2日・第6レースではアルマスティングが1着となり、同馬を管理する田村康仁調教師(美浦)は、現役28人目となるJRA通算500勝(延べ6185頭目)を達成しました。

### ●サマーシリーズの各チャンピオンが決定

9月8日(日)に行われた産経賞セントウルS(GII)をもって今年のサマースプリントシリーズが終了し、第1戦・函館スプリントS(GIII)で3着、第5戦・キーンランドC(GIII)で2着、第6戦・産経賞セントウルSで1着のタワーオブロンドン(牡4歳/美浦・藤沢和雄厩舎)が計21点を獲得、シリーズチャンピオンに輝きました。また同日の京成杯オータムハンデキャップ(GIII)をもってサマーマイルシリーズ全3戦が終了し、第1戦・中京記念(GIII)1着、京成杯オータムハンデキャップ11着のグルーヴィットが計11点でトップとなりましたが、「12点以上」という同シリーズのチャンピオン決定条件は満たさず、今年のチャンピオンは該当馬なしとなりました。サマージョッキーズシリーズも、京成杯オータムハンデキャップで対象レース14戦が終了し、プラストワンピースで札幌記念(GII)を制するなど39点を獲得した川田将雅騎手(栗東・フリー)が自身初となるシリーズチャンピオンの称号を手に入れました。

### ●ウインムート、サクラアンブルールの競走馬登録抹消

2019年さきたま杯(浦和・JpnII)などの勝ち馬ウインムート(牡6歳/栗東・加用正厩舎)は病気のため死亡、8月29日(木)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績28戦8勝・地方5戦2勝でした。2017年札幌記念(GII)の勝ち馬サクラアンブルール(牡8歳/美浦・金成貴史厩舎)は右第3中手骨遠位剝離骨折を発症していることが判明、9月11日(水)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績30戦4勝・地方2戦2勝(北海道在籍時代)で、今後は北海道新ひだか町の新和牧場で種牡馬となる予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●オーバルスプリント(浦和)で地元のノブワイルドが連覇達成

テレ玉杯オーバルスプリント(JpnIII、9月12日、浦和、1400m)は、逃げた3番人気の浦和所属馬ノブワイルド(左海誠二騎手、牡7歳、父ヴァーミリアン)が2番人気のワイドファラオに1馬身半差を付けてこのレース連覇を達成。1番人気のヤマニンアンプリメは3着、ノボバカラは4着、サクセスエナジーは5着でした。

### ●ビギナーズCは未勝利馬コパノキャリー【各地の主要2歳重賞】

ビギナーズC(9月1日、盛岡、1400m)は、先手を取った2番人気の北海道からの移籍馬コパノキャリー(牝、父コパノリチャード)が2馬身差で逃げ切り、初勝利が重賞制覇となりました。

### ●スーパージंगाが佐賀三冠を達成【各地の主要3歳重賞】

ロータスクラウン賞(9月1日、佐賀、2000m)は、4番手から4コーナー手前で先頭に立ったスーパージंगा(牝、父バンブーエール)が単勝元返しの支持に応え、佐賀三冠を達成しました。岐阜金賞(8月29日、笠松、1900m)は、3番手から3コーナー過ぎに逃げ馬を交わした2番人気の金沢からの遠征馬ニューホープ(牡、父フリオソ)がそのまま押し切っています。黒潮菊花賞(9月1日、高知、1900m)は、2番手から3、4コーナー中間で抜け出した単勝1.1倍で圧倒的人気の高知優駿の覇者ナンヨーオボロヅキ(牝、父キンシャサノキセキ)が4馬身差で圧勝。秋の鞍(9月3日、名古屋、1800m)は、逃げた単勝1.2倍で1番人気の東海ダービー馬エムエスクイーン(牝、父パトルプラン)がオオエフォーチュン(兵庫)に1馬身半差を付け、6個目の重賞タイトルを獲得しています。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G1スプリントC〜ハローユームザインがG1初制覇

9月7日にイギリスのヘイドックパーク競馬場で行われたG1スプリントC(3歳上、芝1200m)はハローユームザイン(牡3歳、父コディアック、K.ライオン厩舎)が逃げ切って優勝。G1初制覇を果たしました。連覇を狙ったザティンマンは最後に追い上げましたが半馬身差の2着でした。勝ったハローユームザインは2歳(2018年)10月のG2クリテリウムドメゾンラフィット(芝1200m)で重賞初制覇。今年5月にもG2サンディレーンS(芝1200m)を制しましたが、続く前走6月のG1コモンウェルスCは3着でした。

### ●G1ムーランドロンシャン賞〜サーカスマキシマスが接戦制す

フランスのパリロンシャン競馬場で9月8日にG1ムーランドロンシャン賞(3歳上牡牝、芝1600m)が行われ、3番手でレースを進めたアイルランド調教馬のサーカスマキシマス(牡3歳、父ガリレオ、A.オブライエン厩舎)がG1ジャックルマロワ賞からの連勝を狙った、同じくアイルランド調教馬ローマナイズドとの接戦をハナ差で制して優勝。今年6月のG1セントジェームズパレスS(芝1600m)以来、2つ目となるG1制覇を果たしました。